

外国人市民へ、市やボランティアなどが行う
さまざまな支援を紹介します。



くだもののかずを
かぞえて
すうじをかいたよ



小学校入学前の支援



プレスクール

小学校入学前の外国にルーツを持つ子どもを対象に、小学校で戸惑うことなく学校生活に適應できるよう、日本語や学校生活について学ぶ場です。

日本人の保護者でも、分かりにくいことが多い小学校での生活。日本の小学校に通った経験のない外国人の保護者は、大きな不安を抱えています。その不安を少しでも解消し、入学前から小学校への就学までを踏まえた支援を行うため、プレスクールを2022年度にモデル事業として行い、2023年度から本格的に実施することになりました。

学ぼう



プレスクールでは、学べることがいっぱい



小学校での生活をイメージして、「起立」「おはようございます」「着席」で始まり、テーマに沿った授業を行います。

友達になろう

名前を平仮名で書いて、
自己紹介カードを作成します。

体の名前を覚えよう

体の部位の名前を覚えて、
体調の伝え方を学びます。

学校へ行こう(持ち物編)

学校で使うランドセルなど、
持ち物の名前を覚えます。

学校を探検しよう

教室・職員室・図書室など、
学校内の部屋の名前を覚えます。

Voice

自分の名前を平仮名で書いたり、雑巾がけをし
たりしました。一緒に学んできた友達と小学校が同
じで、うれしかったです。



★ 石ヶ瀬小1年生 伴ケエン愛琴さん

参加しよう



参加者を募集

- ▶ 期間 9～3月(全12回)
- ▶ 場所 追分保育園・共和東保育園
- ▶ 対象 2018年4月2日～2019年4月1日生まれの
外国にルーツを持つ子ども
- ▶ 料金 無料
- ▶ 申込 電話またはメールで文化スポーツ交流課へ。



文化スポーツ交流課 電話(45)6266 電子メール bunsपो@city.obu.lg.jp

世界とつながる多文化のまち



Multicultural Community

文化スポーツ交流課 電話(45)6266

近年、就労のために来日し、そのまま日本での生活を選び、家族と共に定住する外国人が増えています。そのような状況の中で、外国にルーツを持つ子ども(※)に対する支援の重要性が高まっています。

今号の特集では、多文化共生をテーマに、外国にルーツを持つ子どもに対する市の取り組みについて紹介します。

※親のいずれかまたは両方が、外国人である子どものこと。国籍に関係なく、外国籍の子どももいれば日本国籍を持つ子どももいます。

数字で見よう



大府で暮らす外国人

市内に住んでいる外国人の人口 **3420人**(2024年5月31日現在)

▶ 全体(9万2996人)の約3.7%で、市民の27人に1人が外国人

市内に住んでいる外国人の国籍数 **39カ国・地域**(2024年5月31日現在)

▶ ベトナム・フィリピン・中国などのアジアを中心に多様化

市内の小・中学校に通う外国人の子ども的人数 **109人**(2024年5月1日現在)

▶ 近年は、生まれも育ちも日本生まれの外国にルーツを持つ子どもが増加

RANKING

1	ベトナム	1344人
2	フィリピン	523人
3	中国	387人

考えてみよう



そもそも多文化共生ってなあに?

多文化共生とは、国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的な違いを認め合い、対等な関係を築こうと
しながら、地域社会の構成員として共に生きていくことです。

近年の労働力不足の解消のために国の法律が改正され、外国人材の受け入れの拡充が図られています。
地域社会においても外国人との接点が増える傾向にあるため、多文化共生の必要性が高まっています。

みんなで作ろう



多文化共生に向けて私たちができること

理解を深めよう

世界の国や地域には、それぞれの文化や習慣があります。
国際交流イベントに参加するなどして、気づき・学び・考え・理解を深めましょう。

お互いを尊重しよう

「外国人だから…」ではなく、日本人同士でも違いがあります。
みんな違って当たり前です。違いを認め合い、お互いを尊重する気持ちで接するようにしましょう。

話し掛けてみよう

「言葉が分からないから…」と外国人と話すことを避けていませんか?
地域で共に暮らす市民として、まずは、あいさつや笑顔を交わすことから始めてみましょう。

学校での支援



学校生活をより良く過ごせる支援がたくさん



日本語初期指導教室

基礎的な会話や文法の能力を早い段階で習得するため、講師を学校へ派遣し、集中的・専門的な日本語の基礎指導を行っています。

日本語指導教室

日本語教室を設置し、教員による日本語習得の支援を行っています。日本語指導が必要な子どもが10人以上在籍する学校には、専任の教員を配置しています。

日本語・母語指導員の派遣

ポルトガル語・スペイン語・中国語・タガログ語・インドネシア語などを母語とする日本語・母語指導員を学校へ派遣し、学校生活に適應できるよう支援しています。

暮らしの支援



安心して暮らせるような支援がたくさん



WEBでの外国語案内

生活に必要な行政情報を必要に応じて多言語に翻訳し、市ウェブサイトで提供しています。



外国人総合窓口を設置

外国人の困り事を総合的に対応する外国人総合窓口「ウェルサポ」を文化スポーツ交流課に開設しています。



コミュニケーションボードの活用

コミュニケーションボードを市役所などの窓口配置するとともに、飲食店などでも活用するよう推進しています。



コミュニケーションの支援



やさしい日本語を使ってみよう



やさしい日本語とは、外国人などにも分かるよう配慮して、簡単にした日本語のことです。外国人市民の母語が多様化する中、より多くの方に情報を伝えるとともに、コミュニケーションを取る上での有効な手法の一つとして、やさしい日本語の普及啓発を進めています。

POINT やさしい日本語のポイント はさみの法則



「はっきり言う」

口をちゃんと開けて発音しましょう



「さいごまで言う」

文末まできちんと話しましょう



「みじかく言う」

一文を短くして話しましょう

INTERVIEW お互いを知ることから多文化共生を始めてみましょう

日本で暮らす外国人と日本人の間には、「言葉」「制度」「心」の3つの壁があると言われています。中でも心の壁は、外国人が日本で暮らしていく上で、誤解や偏見が生まれる大きな障壁になります。市民として共に暮らしているのに、国籍・文化・慣習などの違いを「分からないから」「私たちと違うから」と、距離を置くのは少し寂しいですね。

多くの外国人や外国にルーツを持つ人々が市内で暮らし、さまざまな場面で活躍しています。3つの壁を解消することは簡単ではありませんが、まずは身近な問題である心の壁を解消するため、ぜひ皆さんも、お互いを知ることから始めて、確実な一歩につなげましょう。

文化スポーツ交流課 前田大輝



子育て世帯を支援



多文化子育てサロン

子どもを産み育てる外国人が増加傾向にある中で、保護者に孤独や不安を感じることなく、安心して子育てしてもらえよう、日本人の親子との交流の中で、子育てに関する情報や子どもに言葉を教えるポイントなどを学びます。



小学生の日本語学習を支援



クリアンサの会



- ▶開催日 月1回程度
- ▶場所 ミューいしがせ・北山公民館
- ▶料金 無料

Voice
分からないところは丁寧に教えてくれます。



石ヶ瀬小3年生 パンティユライアンさん

中学・高校生の日本語学習を支援



地域多文化ネット WKY



- ▶開催日 毎週(木) 19:00~21:00
毎週(土) 18:00~19:30
- ▶場所 北山公民館
- ▶料金 無料

Voice
いろいろな国籍の友達ができ、成績も上がりました。



大府北中3年生 大谷尚珠さん

大府北中3年生 ボハラシリシテイさん



INTERVIEW 学習支援と居場所の提供でみんなをサポート

小学生の頃に日本語が分からないまま日本に来て、周りの人とも会話ができず、つらい経験をしました。みんなの気持ち分かるので、力になれるならとボランティアを始めました。WKYでは、一人一人の能力に合わせた学習支援と外国人が日本での生活になじむための支援を行っています。WKYに来て、話し相手が見つかり、その人にとっての居場所になれたらと思います。

講師 大学3年生 アバニラエマヌエルさん

大人の日本語学習を支援



国際交流協会



- ▶開催日 毎週(日) 10:00~12:00
- ▶場所 市役所
- ▶料金 1000円(入会金)

Voice
 ユグエラシヤさん

日本語能力試験のN2取得を目指して、勉強しています。



国籍問わず、いろいろな人と仲良くなりたい INTERVIEW

日本に来て一人だったので、友達を作るために参加しました。日本語の勉強はもちろんですが、定期的開催されるイベントにも参加して、いろいろな人と交流しています。もっと市民の皆さんと仲良くなりたいので、こうして日本人の皆さんと会話ができる機会を提供してもらっているのは、とてもありがたいです。

参加者 アユリニさん

